

# 射水

特集

古儀「新嘗祭神楽歌」復興

射水神社社報 第29号

# 無窮の御神徳を仰いで



射水神社宮司
松本正昭

梅雨冷の肌寒い日の中で紫陽花が大輪の花を咲かせる季節となりました。今年は年が改まり立春が過ぎた頃から、北陸地方では記録的な大雪となり、崇敬者各位には、除雪作業や交通支障など、日常生活に難儀されたことかと思います。また、当神社が鎮座する古城公園では、倒木や土塁の崩落など甚大な被害に見舞われました。そういう中でも早期復旧へ向けた寄附支援の輪が早くに広がりをみせていることは大変有り難く感じています。

さて、本年は天皇陛下御即位三十年、明治維新百五十年の節目にあたります。

今上陛下には御譲位の期日が法によって決定した今日、満三十年になんなんとする平成の御代に、常に国民の平穏と幸せへの祈りを捧げ、国家と国民の象徴としてお務めにご精励遊ばして来られました。この御労苦に対し感謝の誠を捧げつつ、皆様とともに「御即位三十年奉祝祭」を斎行致したく思っております。

百五十年前の明治元年（一八六八）三月、明治天皇は京都御所の紫宸殿において「五箇条の御誓文」を御親ら天地神明に誓い、近代日本の礎となる国是を定め、維新の大業を成し遂げられました。

明治の御代の当神社の歩みを顧みますと、神武創業の復古精神の下、明治四年（一八七一）に国幣中社に列格せられ、神仏分離の規制と境内地が狭く民家が隣接しているとの理由から、同八年（一八七五）には千数百年の神縁地を離れ、現在鎮座される「古御城（ふるおしろ）」と親しまれた高岡城跡に遷座するという全国的に稀に見る歩みを辿っています。

全国的に「官社」とは政府所轄の神社で、氏子との関係が極めて少ないように考えられております。しかしながら実際には、国から約一ヵ年総経費の三分の一の下附金のみで、そのほかは神社の収益と氏子・崇敬者の負担金によらなければ維持出来なかったのです。

明治十一年（一八七八）、天皇陛下の北陸御巡幸に際して、射水神社は奉幣に預り、国幣社としての格式を保ちました。しかし、実際には遷座後、旧来からの氏子との関係が稀薄となり、国からの下附金に頼らざるを得ず、国幣社としての祭典や社頭の維持にも困窮を極めていた時代でもありました。このような状況の中、木津太郎平氏（衆議院議員）の名の下に「奉賛会」が立ち上げられ、神威の発揚に努められたのであります。

そして、戦後、不幸にして戦いに敗れ、国幣中社の社格は廃せられ、神社としての経営に腐心したのでありますが、木津太郎平氏の〝奉斎の誠心〟は館哲二氏（内務省神社局長・富山県知事・当神社奉賛会長）に受け継がれ、神社の復興・祭儀の執行に献身的努力されたことにより、奉賛会組織も充実し、辛うじて神明奉仕に事欠かぬ程に済われるに至りました。

本年は、館哲二氏没後五十年の年でもあります。ここに先人達の気概にあらためて想いを致し、感謝の誠を捧げ、神徳の宣揚に資せんとの決意をあらたにするものです。



# 地域づくりの歩みを受け継いで



射水神社崇敬奉賛会
総　裁
橘　慶一郎

平成二十九年度は、全国植樹祭に伴い、天皇皇后両陛下の富山県行幸啓がありました。高岡へもお立ち寄り頂き、当射水神社にも幣饌料を賜り、「幣饌料奉奠奉告大祭」が斎行されました。両陛下には豊かな海づくり大会に続いての当県への行幸啓となり、県民に深い感動を与えて頂きました。

また、大伴家持卿生誕千三百年の節目の年を迎え、市内外で様々な記念行事が催行され、当神社でも「うなぎ奉献祭」、「七夕祭」、「かたかご茶会」が執り行われました。家持卿が編纂に深く関わったとされる我が国最古の歌集『万葉集』には、二上山をはじめ風光明媚な郷土の光景が数多く詠まれています。とりわけ、家持卿の「二上山の賦」は、国守としての当神社御崇敬の念が籠められており、「越中万葉」の代表歌に挙げられております。改めて、私たちの郷土を形づくる素晴らしい自然に想いを致し、万葉の昔から今日に至るまで、御神徳の下に営々と築かれてきた先人の地域づくりの歩みに感謝の念を深くするものです。

この間、崇敬奉賛会の皆様には、当神社の護持運営に暖かいご支援を賜っており厚く御礼申し上げます。松本正昭宮司はじめ神職・職員の日々の奉仕と相まって、御神威の発揚に努めて頂いていることを深く喜びとするものです。崇敬奉賛会と致しましても、引き続き、祭儀の奉賛、会員の増員など活動を強化し、その役割を果たして参りたく、皆様のお力添えをよろしくお願い致します。

この一年の、国、県、また高岡の町々里々の弥栄と皆様のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶と致します。

# 神宿る自然から学ぶ心



射水神社崇敬奉賛会
会　長
穴田甚朗

平素は当神社崇敬奉賛会に対し、多大なるご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。

顧みますれば、昨年来、全国各地で豪雨による河川氾濫や土砂災害、そして雪害などの自然災害に見舞われ、改めて防災の備えに万全を期さねばとの思いと同時に、自然に対する畏敬の念を新たに致しました。一方で、新鮮な農林水産物を手にするにつけ、豊かな自然の恵みに感謝する一年でもありました。

また、五月には全国植樹祭に際し、天皇皇后両陛下が富山県に行幸啓遊ばされた折に、当神社へ幣饌料の下賜があり「幣饌料奉奠奉告大祭」を臨時大祭として斎行されたことも大きな喜びでありました。

松本宮司はじめ神職・職員の皆様は、祭儀や祭事に対し新たな史料をもとに古儀復興に向け熱心に取り組まれ、御神威の発揚・奉護に努められておられるに接し、崇敬奉賛会としても、さらに崇敬の念を厚くし、積極的に関わる所存であります。

そして、神社奉護に携わる私たちは、〝敬神崇祖の心〟を連綿と継承する中で積み重ねられてきた、助け合い、支え合いの精神文化を新たな世代に引き継いでいくことも大きな役割であります。

当神社の更なる発展と、崇敬奉賛会会員各位のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

# 一年の稔りに感謝を捧げる『新嘗祭』で〝古儀・神楽歌〟を復活



「神楽歌」が奉唱される中、宮司が「初刈りの稲穂」を奉る

## Ⅰ、厳かに『新嘗祭』を斎行

五穀豊穣はじめ農林水産商工営業全ての振興・発展に感謝する新嘗祭を十一月二十三日午前十時から崇敬者約百名のご参列の下、厳粛に執り行いました。

新嘗祭は、春の祈年祭と対をなし、飛鳥時代から行われているとされる重要なお祭りで、今日も宮中では天皇陛下御親ら新穀を天神地祇にお供えされて五穀豊穣の感謝の祈りを捧げられます。

当神社では、古儀復興への取り組みの中で、当年も県内外の崇敬者よりの品々と、生産者が丹精込めて作られた新米・酒・鮮魚・海産物・野菜・果物、高岡漆器・高岡銅器・越中福岡の菅笠・手袋などの自社工業製品が「進納品」として御神前に奉納されました。

祭典では、宮司が祝詞を奏上、巫女が「浦安の舞」を奉奏、空手道千山道場の堀田千宴子師範が「沖縄伝統空手上地流〝セーサン〟」の型を奉納、参列員が玉串を手向けて神恩への感謝を捧げると共に、更なる生業繁栄を祈りました。



御神前に祝詞を奏上



祭典を寿ぐ「浦安の舞」


千山道場・堀田千宴子師範による型の奉納


崇敬奉賛会から奉られる幣帛

## Ⅱ、「新嘗祭神楽歌」の再興

一昨年十月、都内で当社に関する戦前の公文書等の史料が新たに見つかりました。（前々号既報）約七十点ある史料の多くは大正時代から昭和初期にかけてのものです。

その中に、お祭りにお供えされた方の氏名を記す『新嘗祭御初穂進納者芳名簿』に「新嘗祭神楽歌」が採録されていました。

神楽歌の歌詞は、明治二十六年八月、文部省より祝日大祭日の奉祝儀式で歌う曲を示した「祝日大祭日唱歌」に選定された「新嘗祭」（小中村清矩作歌辻高節作曲）と、ほぼ同一ですが、「御饌」を「御酒」につくる等、当社の独自性も確認出来ました。

再興するにあたり、唱歌「新嘗祭」から雅楽用に龍笛・篳篥・鳳笙の譜面を新たに起こし、歌詞に込められた先人の想いに寄り添うべく、同時に歌の温習に励みました。

神楽歌は、大前に神饌を奉る献饌時の祭典楽として用いられ、宮司が「初刈りの稲穂」を外陣内の神饌本案上に奉る際に、奉仕の神職と参列者が皆で奉唱しました。


「新嘗祭神楽歌」72年経た音色は
射水神社であす奉奏
高岡市の射水神社は、昨年発見した「新嘗祭神楽歌」を雅楽調にして、二十三日の新嘗祭で奉奏する。史料は戦前のものとみられ、同社は「幻の歌」とみている。（一部省略）
北陸中日新聞（11月22日）


戦前の神楽歌復活
歌詞見つかり、雅楽用に譜面
高岡・射水神社 あすの新嘗祭
富山新聞（11月22日）


戦前の神楽歌復活
射水神社
あす新嘗祭で奉納
北日本新聞（11月22日）


「新嘗祭神楽歌」を再興
高岡・射水神社
再興の神楽歌奉納
高岡 射水神社（高岡市古城、松本正記宮司）の新嘗（にいなめ）祭は23日、同神社で行われ、戦前の史料を基に再興させた「新嘗祭神楽歌」を奉納し、五穀豊穣（ほうじょう）に感謝した＝写真
北日本新聞（11月24日）


新嘗祭の神楽歌あす披露
射水神社 昨年発見、明治期の唱歌元に
朝日新聞（11月22日）


高岡・射水神社 新嘗祭
復活の神楽歌 奉唱
雅楽とともに
参拝者も口ずさむ
富山新聞（11月24日）






# 新嘗祭進納者芳名一覧

## 一、五穀の部

**新　米**
高岡市農業協同組合
富山県神道青年会（献穀米）
宮﨑　正・泰子
新田孝次郎
中谷　信吉
石川県志賀町在住 崇敬奉賛者

**紅白餅**
射水神社崇敬奉賛会
高岡市護国神社奉賛会
いみづ協賛会

**餅　米**
石川県志賀町在住 崇敬奉賛者

**小　豆**
石川県志賀町在住 崇敬奉賛者

## 一、御神酒の部

**清　酒**
穴田　甚朗
荻布　精一
菅野　淳一
林　松夫
佐武峻三久
山達　是人
廣嶋　康雄
高岡交通㈱
トナミ運輸㈱
北陸銀行高岡支店
㈱北陸建材社
塩﨑商衡㈱
㈱山内神仏具店
森田建設㈱
高岡市弓道連盟
富山テレビ放送㈱高岡支社
カマタニ印刷
山田酒店
朝山酒店
空手道 千山道場
あけぼの敬神講
山村　義弘

**甘　酒**
石川県志賀町在住 崇敬奉賛者

**麦　酒**
いみづ協賛会
要藤　利明

## 一、海川の部

**鯛・ガンド**
㈱高岡水産物市場

**ししゃも**
㈱正三商店

**寿留女**
㈲宮一

**干　物**
㈲橘楼

**海　苔**
グリーン産商㈱

**昆　布**
㈱室屋
扇子昆布商店

**蒲　鉾**
天野屋蒲鉾店
㈲広又蒲鉾商店

## 一、山野の部

**椎　茸**
㈱北翔

**薩摩芋**
太閤堂
新田孝次郎

**白菜・人参**

**大根・蓮根・長芋**
北川　貞吉

**大　根**
向山　耕司

## 一、果物の部

**林　檎**
丸果㈱高岡青果市場
野村　利実

**柿**
向山　耕司

## 一、菓子の部

**越中銘菓**
中谷　信吉
㈱フレッシュ佐武
山岡石材工業㈱
㈱山本建成工業
日本海ツーリスト㈱
天野屋蒲鉾店
㈲広又蒲鉾商店
㈱四津井
高岡市連合遺族会
塩﨑商衡㈱
森田建設㈱
高岡市弓道連盟
高岡ミュージックセンタ・オオタピアノ
あけぼの敬神講
山村　義弘
内記　芳男
青井　博
関口　光子
城山　孝
藤川　達三
室谷　博久
要藤　利明
中村　喜進
戸井　貢
江守　榮信
島　啓介
太田奈緒美

## 一、工業製品の部

**高岡銅器**
**千支「戌」ブロンズ像**
㈱織田幸銅器

**高岡銅器　純銀製「狛犬」**
㈱古城製作所

**高岡漆器「卓球球拍」**
㈲中村漆器店

**自社工業製品（手袋等）**
丸和ケミカル㈱

**自社製品　お茶**
㈱伊藤園

**越中福岡「菅笠」**
城山　孝

## 一、幣帛料の部

穴田　甚朗
寺﨑　敏夫
荻布　精一
林　松夫
山達　是人
立野井富二
田井　佳夫
廣嶋　康雄

（敬称略・順不同）



# 年の瀬の祓い　新たに『大祓斎串』を奉製

## 神社祭儀の本儀復古への取り組み

半年間の罪穢れを神々のお力によって祓い清める、毎年六月と十二月末の「大祓」では人形代と共に、麻苧と木綿によるお祓いが行われます。そして参列者一同で「大祓詞」を読み上げ、最後に上位の神職が「災厄をうつした人形代などを川に持って行き流せよ」と言い、下位の神職が「オウ」と応える場面があります。



富山新聞（平成29年12月29日掲載）

第3種郵便物認可　富山新聞

高岡・射水神社

## 心身の穢れ　自分で清め

きょう年越の大祓

### 祓い具を作製

斎串は、自らの体や「関」とで穢れを移し、来年1月14日の左義長（射水の小正月）などの清めたい場所を「左・右・左の順でなでること」で神社に納める。

高岡市の射水神社は29日に行われる「年越の大祓」に向け、新たに自祓い用の「大祓斎串」を作製した。「国神社では神社史編さんに伴い祭儀考証を行っており、今年6月の「夏越の大祓」から、より本来の姿に近い儀式を再現している。斎串の制作はその取り組みの一環で、当日参拝できない崇敬者にも実際の儀式に近いお祓いができるように、家族そろってすがすがしい気持ちで新年を迎えてもらう考えだ。

「古来より伊射奈岐神社に伝わる自祓い用の祓い具を参考に、神職が大祓に込められた意味を考えて、新たに斎串（いぐし）を作製した。長さ約20㎝の串の先端に、五箇山和紙から切り出した五枚の紙垂（しで）を挟み、麻苧で結わえたもので、神社に伝わる自祓い用の祓い具を参考に、より相応しい形を求め、新たに奉製しました。なお、五枚の紙垂には、罪穢れを祓う祓戸（はらえど）四柱の大神と、射水の大神を併せた五柱の神々のお力で災厄を除く意味が込められています。

この斎串を手に、自らの身体や、玄関・部屋など清めたい場所を左・右・左の順で祓い清めて新年を迎え、一月十四日の左義長「射水の火祭り」に神社へ納められ、お焚き上げされました。これによって、当日参拝できなかった崇敬のご家族様にも実際のお祭りに近いお祓いが受けられるようになりました。



「人形代」を浮かべる参拝者

しかしながら今日では、河川に人形代を流すことは出来ず、お祓いの後は焼納することで代えられている現状でありました。

当神社では、神社史編纂に伴う様々な祭儀考証のもと、今日行われているお祭りについても、より本来の姿に近付ける取り組みを行っています。

昨年の夏越の大祓より、大伴家持卿が『万葉集』の歌に詠み、当社に関しても所縁が深い「射水川」の水を檜樽に満たし、災厄をうつした人形代を参拝者自らが浮かべてお祓いしました。

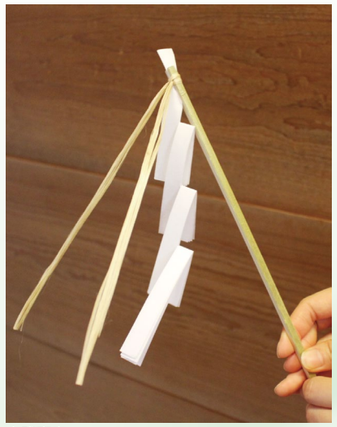
また、ご家族揃って清々しく初春をお迎えいただくため、新たに『大祓斎串』を奉製し、「大祓修符」と合わせて授与しました。

大祓斎串は、長さ約二十㎝の竹串の先端を割り、越中の五箇山和紙から切り出した五枚の紙垂を挟み、麻苧で結わえたもので、神社に伝わる自祓い用の祓い具を参考に、より相応しい形を求め、新たに奉製しました。なお、五枚の紙垂には、罪穢れを祓う祓戸四柱の大神と、射水の大神を併せた五柱の神々のお力で災厄を除く意味が込められています。

この斎串を手に、自らの身体や、玄関・部屋など清めたい場所を左・右・左の順で祓い清めて新年を迎え、一月十四日の左義長「射水の火祭り」に神社へ納められ、お焚き上げされました。これによって、当日参拝できなかった崇敬のご家族様にも実際のお祭りに近いお祓いが受けられるようになりました。

## 『大祓斎串』を新たに奉製、家族みんなで清々しい初春を

十二月二十九日に行われた年越の大祓でも、県下一円から崇敬者がお参りされ、射水川の清き流れに見立てた三本の御幣が立つ檜樽の「斎水（いみず）」に「人形代」を投じ、一年の災厄罪穢れを祓い清めました。



大祓斎串

# 境内の梅の枝を用い 初めて〝合格祈願『梅ヶ枝』〟を奉製

「お正月の天神様」飾りは、富山県下一円で古くから伝わり、毎年、十二月二十五日から一月二十五日までの間、各家々の床の間には「掛け軸」や井波彫刻による「木彫」、郷土玩具の「土人形」をお飾りして鏡餅や御神酒が供えられ、越中文化を代表する年中行事、民間習俗として伝えられています。

射水神社では全国植樹祭とやまが開催されたことを記念し、この特筆される越中文化を次代にと守り伝え、また、鎮守の杜の樹木に親しみを寄せていただくために、初めて〝合格祈願『梅ヶ枝』〟を奉製しました。

雪吊り作業の際の剪定で伐られた境内の梅の〝ずばえ〟（若い枝）を用い、神職が一本一本、長さを整えて〝紅白の幣〟を取り付け、巫女が〝合格祈願のお守り〟と〝合格絵馬〟を取り添えました。

一般には「受験生にお正月はない」とも言われますが、『梅ヶ枝』を勉強机や床の間の天神様の前に置いて、正月気分返上で受験勉強に励み、また時に梅の香でリフレッシュをし、春には梅に続いて「サクラ咲く」合格の吉報へと結んで頂きたいと思い、学問の神様として名高く、全国の天満宮の総本社である京都・北野天満宮の招福の梅の枝「思いのまま」にも倣わせていただきました。

天神様の御縁日であり、お正月を迎えるために各家で天神様を飾り始める十二月二十五日から、進学受験生や就職試験活動の学生、家族に特別授与を致しました。

また、今年の正月より「サクラ咲く　試験合格・学業成就　誓願絵馬掛け所」を新たに設けました。

満開の桜が描かれた〝合格絵馬〟には、受験へ望んでの本人の誓いや決意と願いが込めて掛けられ、境内には一足早く春が訪れました。



合格守と、合格絵馬が結わえられた「梅ヶ枝」



〝サクラ咲く〟合格絵馬



## 記録的大雪により、社殿を取り囲む玉垣が一部倒潰・破損

## 境内のみならず、公園内各所に甚大な被害

## 古城公園の復興・復旧に向け、ご奉賛支援の輪が拡がる

一月十二日の朝、「五六豪雪以来だ」と皆が口を揃えました。富山県を始めとする北陸地方は、昭和五十五年（一九八〇）十二月から同五十六年（一九八一）三月にかけて、東北地方から北近畿までを襲った記録的豪雪以来、三十七年ぶりの大雪に見舞われました。

高速道路は一部通行止めとなり、ローカル鉄道と航空便は運休と欠航が相次ぎ、福井県の国道八号線では一時千五百台もの車が立ち往生しました。当神社では、本殿脇にあった桜の大木が雪の重みに耐えられず倒れ、本殿・祝詞殿・中門・拝殿を取り囲む玉垣に接触、一部倒潰・破損しました。

境内のみならず、高岡古城公園全域に甚大な被害が及び、参道・園路には幹半ばで折れた樹木、根こそぎ折れた樹木が覆いかぶさり、通り道もない程でした。公園の人気撮影スポットの一つである鮮やかな朱塗りの太鼓橋「駐春橋」附近でも桜の大木が倒れ、三の丸（高岡市民体育館・古城公園動物園側）への入り口となる搦手口では、倒木とともに土塁が崩落するなどの被害が出ました。

このような事態に対し、早朝より神社・公園管理事務所で被害状況を確認しました。公園は、平成二十七年三月十日に「高岡城跡」として国史跡に指定されており、特に搦手口の土塁崩落については被害が大きいため、市文化財課等の連携のもと、修復の作業に入る予定となっています。

神社としても境内を速やかに復旧させ、射水の大神様が鎮まります元の姿を取り戻すべく、この五月より修繕作業に入っております。

さらに参拝者から「一連の復旧への後押しをしたい」との声が、神社へ相次いで寄せられたため、高岡市への募金活動を進めておりますが、支援の輪が拡がっていることに、あらためて古城公園・射水神社が富山県民にとって「鎮守の杜」として多くの方々に親しみ、愛されていることを肌で感じ、神職・巫女もともに復旧への一助となれるよう、日々の神明奉仕により一層努める所存です。


樹木が覆いかぶさった園路


被害を受けた玉垣

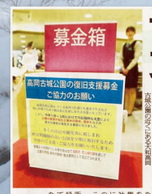

大雪で倒木・土塁崩落 被害3000万円

古城公園復旧へ募金

射水神社 折れた枝で返礼品

今年の大雪で樹木が折れるなどの大きな被害を受けた高岡古城公園（高岡市）の復旧を後押ししようと、周辺に鎮座する射水神社（松本正昭宮司）が、募金活動に乗り出す。「境内の杜」として親しまれており、神職たちは「応援を通して『射水の杜』全体のことを考えてもらいたい」と話す。（高岡支社編集部・船木悠平）

北日本新聞（平成30年4月14日掲載）




古城公園復旧支援広がる

募金箱で呼び掛け

高岡の企業、神社

富山新聞（平成30年4月18日掲載）

# 相撲と射水神社

## 記念大会の成功祝い
## 相撲道の更なる興隆を誓う

九月二日、第九十回記念県青年相撲選手権の祝賀会が神社参集殿で行われ、県関係者や高橋高岡市長始め、約九十名の関係各位が出席され、大会の成功を祝うと共に、斯道の更なる発展を誓いました。

また、当日の会場には、昭和五年の県下壮年相撲大会で当神社より親授されていた「御神盃」と、富山県青年相撲大会の団体優勝杯「富山県知事盃」（第四十五回～六十回大会で授与）・団体準優勝杯「高岡市長賞盃」（第四十六回～六十回大会で授与）が特別に飾られました。


「御神盃」「団体優勝杯」「団体準優勝杯」

## 第九十回 県青年相撲選手権
## 土俵祭を斎行

八月十三日、県相撲連盟・高岡市相撲連盟・北日本新聞社が主催する県青年相撲選手権が古城公園三の丸にある高岡市民体育館の特設土俵で開催されました。本大会は大正十四年（一九二五）に北日本新聞社の前身、北陸タイムス社が大正天皇の天長節を奉祝して初めて開き、今回は第九十回の佳節を迎えました。

前日に市相撲連盟関係者や高校生ら約三十人が、土を盛って俵を埋め込み、しっかりと固められた特設の土俵が完成すると、大会の成功と安全を祈り土俵祭を執り行い、宮司が祝詞を奏上し、土俵の四方と中央に塩を撒いて、お清めしました。


土俵祭 - 安全を祈り土俵を清める

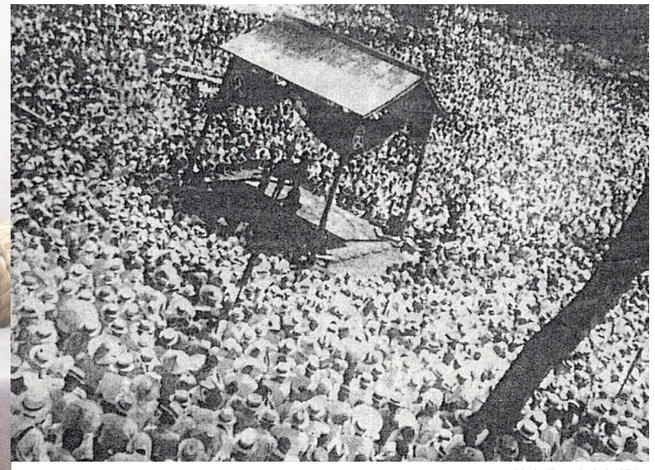
## 賜 天覧 公園相撲場の歩み

大正十二年、萩下大丞氏と市青年団の協力で完成した古城公園の本丸相撲場は、当時一万五千名を収容でき、北陸最大の規模を誇りました。

昭和三十三年、畏くも昭和天皇、皇后両陛下の行幸啓と、秩父宮妃殿下の御視察を仰いで、第十三回富山国体相撲競技大会が賑々しく開催されました。二年後の同三十五年に市民体育館が建設されるにあたり、相撲場は現在地である射水神社前の卯辰山に移設、市営の相撲場として竣功しました。


熱戦が繰り広げられる土俵

なお、昭和二十九年九月、館哲二射水神社代表役員（遷座八十年祭奉賛会会長）が主管して斎行された三十年ぶりの式年祭では、神社前の卯辰山に特設の土俵が作られ、高岡出身の力士で最高位・小結の射水川健太郎が行司を務めて、市内中学校角力大会（北日本新聞社共催）が盛大に奉祝行事として行われました。


歓声沸く本丸相撲場



まったなし!

# 人生の初土俵!!

初開催

# 『越中 泣き笑い相撲』

大きな声で 泣くほど 逞しく 健やかに!
笑顔あふれる 元気な 赤ちゃん 集まれ!!

**ルール**
本来、勝敗は関係なく、元気な姿を神様に見てもらうことに意義があります。
基本的には、「元気よく泣いた方や、満面の笑顔があふれた方が勝ち」となります。

**場所**
射水神社大鳥居前　古城公園相撲場
（雨天の場合：参集殿内 特設土俵）

**日時**
平成三十年七月七日（土）
奈良・平安時代の宮中行事では、七夕に合わせて相撲節会が行われていました。

**参加資格**
生後六カ月から一歳までの元気な男女児

**参加料**
赤

**お問合せ**
射水





本番で使う軍配と優勝者に贈る八幡幣を手に、イベントをPRする関係者＝射水神社

赤ちゃん2人が土俵上で対面し泣き声や笑顔を競う「越中泣き笑い相撲」が7月7日、高岡市の古城公園相撲場で初めて行われる。子どもの



越中 泣き笑い相撲
満員御礼
越中 泣き笑い相撲係 拝

"丈夫で健康な子に育ってもらいたい"という親心はいつの時代も変わらない素直な願いです。

『泣き相撲』は、赤ちゃんの健やかな成育を祈願する日本の伝統行事として、三〇〇年以上の歴史がある神事です。

相撲と神事は極めて密接な由緒があり、越中国、富山県の総鎮守・総氏神と親しく崇められる射水神社で成長祈願を執り行い、大鳥居前の古城公園相撲場で奉納『越中泣き笑い相撲』を初めて開催することとなりました。

全国の神社でも近年は「泣き相撲」として開催されていますが、特に射水神社では『泣き笑い相撲』として、特に印象深い笑顔の赤ちゃんにも勝敗の基準を設けることと致します。

〝化粧廻し〟を締めた赤ちゃんが「人生の初土俵」へあがる姿はとても可愛らしくも逞しくもあり、赤ちゃんの泣き声や笑顔で行司が勝負を決します。

赤ちゃんが抱えられながら泣き合う姿、周りの大人たちの一所懸命に応援する姿が観衆の笑顔を誘います。

お子さまの成長をご家族皆さまで感じて下さい。



高岡城は慶長14年（1609）、加賀藩初代藩主前田利長の隠居城として築かれました。幕府の一国一城令で廃城となりましたが、堀や城の区画「郭」の形状が約400年経った今も良好に残る城郭は全国でも珍しく、平成27年（2015）3月に国史跡に指定されました。県内では唯一「日本100名城」に選ばれています。当神社は江戸時代の城郭に社殿を構える唯一の一宮です。

高岡志貴野ＬＣ チャーターナイト五十周年

## 国指定史跡「高岡城跡」石碑 除幕清祓建立奉告祭

高岡城があった高岡古城公園大手口に国史跡指定を記念した「高岡城跡」の石碑が完成し、除幕清祓建立奉告祭が行われました。披露された九月十三日は高岡開町の祖・前田利長公が高岡城へ入城したとされる日です。

高岡志貴野ライオンズクラブ（以下ＬＣ）が設立五十周年を記念して、高岡城跡の文化的価値を多くの人に知ってもらおうと建てられ、奉告祭には高橋高岡市長はじめ、ＬＣのメンバー、地域住民などおよそ約七十人が出席、一同が郷土である歴史都市・高岡の新たなシンボルの完成を祝いました。




除幕の儀。福島県産の紀山石を用いた石碑は高さ2.7m（台座を含めると3.2m）、幅1.4m、重さ12ｔで、石工事は山岡石材店、揮毫は同ＬＣ会員の書家・嶋崎一翠氏が手掛けられました。

祭典では、来賓の高岡市長、同ＬＣの盤若進二会長ら七名が除幕を行い、宮司が祝詞を奏上、石碑を清祓しました。

祭典を寿ぎ、巫女が「末広の舞」を奉奏、「万葉 華太鼓」が利長公入城の賑わいをイメージした和太鼓による太鼓の揃い打ちを披露し、華を添えました。

結びに、盤若会長は「石碑の建立を契機に高岡城跡の保全美化活動を続け、歴史都市高岡をさらに発展させ、長く後世に伝えていかなければならない」と挨拶、高橋市長からも祝辞を頂戴しました。






夢を追う男　南極点到達を目指し

## 阿部雅龍さんご参拝 人力車で全国一宮を巡拝

人力車を引きながら、全国の一宮を巡拝している阿部雅龍（あべまさたつ）さん（34）が、九月二十九日、当神社にご参拝下さいました。

阿部さんは秋田市出身で、小学生の頃に同郷で日本人初の南極探検を果たした白瀬矗（のぶ）中尉（一八六一～一九四六）に憧れ、「冒険家になる」との夢を抱かれました。

今回の人力車での巡拝は、白瀬中尉が明治四十五年（一九一二）に辿り着き、命名した「大和雪原」を踏んで南極点を無補給単独踏破するためのトレーニングであると共に、旧六十八ヵ国の神社を巡り、誓いを立てるためでした。

昨年二月二十四日に鹿児島県指宿市の薩摩国一宮・枚聞神社を出発してから約六千キロの道のりを踏破し、十月二十九日には見事、秋田県にかほ市の白瀬中尉の墓前で一宮巡拝の達成奉告と、次なる夢である南極点到達達成を誓われました。

当神社参拝時にも「全国の一宮で南極点への誓いを立て、百年の時を超えて、先輩、白瀬中尉の足跡を伸ばしたい」と強く決意を語られる姿が鮮明で、さらなる高みへ挑戦し続ける阿部さんをこれからも応援します。






出発をお見送り



参拝される阿部雅龍さん

## 杜の景色

### 祭事暦

8月12日　土俵祭
8月27日　諏訪社例祭
9月13日　志貴野ＬＣ 国指定史跡石碑建立清祓式
9月16日　秋季大祭
9月23日　日吉社秋祭
9月22日　秋季皇霊祭
9月24日　院内社秋祭
10月1日～11月30日　七五三まつり
10月4日　高岡市護國神社 秋季例大祭
10月17日　神嘗奉祝祭
11月3日　明治祭
11月15日　蒲鉾昆布奉献祭
11月22日　幸ひ守清祓式
11月23日　新嘗祭　神楽歌再興
12月22日　冬至祭
12月23日　天長祭
初詣臨時奉仕巫女認証式
12月26日　煤拂祭
神符守札奉製入魂祭
12月29日　年越大祓
12月31日　除夜祭
毎月1日　朔日祭・23日　月次祭

mori-no-keshiki

mori-no-keshiki

## 平成三十年の幕開け

天皇陛下御即位三十年の佳節を迎えた本年の正月、一日に崇敬者各位の生業繁栄・家内安全を祈る歳旦大祈願祭を斎行。二日には富山県若鳶会による「吉例　木遣り・纏振り」が奉納され、初春の古城の杜に江戸木遣りが響く中、勇ましく纏が振られ、本年も射水の大神様の御神徳を仰ぎ、大勢の参詣者と共に賑々しく新年をお迎えすることが出来ました。



### 祭事暦

1月1日　歳旦大祈願祭　初詣
1月2日　木遣り・纏振り
1月6日　消防出初式
1月7日　昭和天皇祭遙拝
1月14日　左義長　―射水の火祭り―
2月3日　節分祭
2月11日　紀元祭
2月17日　祈年祭
3月21日　春季皇霊祭
4月3日　神武天皇祭遙拝
4月13日　高岡市護國神社　春季例大祭
4月18日　日吉社春祭
4月23日　例祭
4月29日　昭和祭　院内社春祭
5月13日　悪王子社春祭
毎月1日　朝日祭・23日　月次祭

## 大絵馬『七彩 犬力士』で迎春

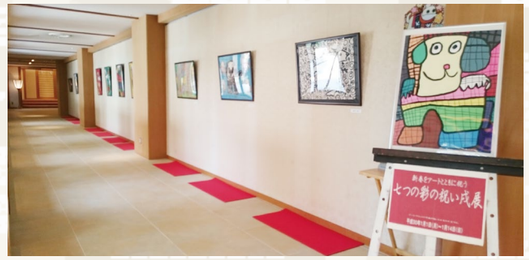


大絵馬『七彩　犬力士』

あらゆる芸術家を支援する「アートNPO工房ココペリ」を通じて、一昨年の申年より奉納いただいているもので、本年で三度目となりました。

大絵馬の大きさは縦一・八m、横二mあり、一年の平穏を祈る初詣時には多くの参拝者が家族や友人らと記念写真を撮る姿が見られました。

七彩大絵馬は、十一月初旬まで、社殿向かって右側の翼廊軒下に掲げられます。



お正月より14日まで、参集殿内のギャラリーでは、10人の作者が干支をテーマに描いた作品展「七つの彩の祝い戌」が開催されました。

〝生の芸術〟とも言われ、なにものにもとらわれない表現「アール・ブリュット」の分野で活躍している末永征士さん（射水市戸破出身）の干支「戌」にちなんだ大絵馬が本年もお目見えしました。

## 一年の感謝を込めて 射水の火祭り 左義長

古式の発火法である火鑽具によって、御神前で清らかな火〝忌火〟を起こし、高さ約十m超のやぐらに点火する左義長では、お正月飾りや一年間お世話なったお守りや縁起物、書き初めなどが焚き上げられました。




やぐらの頂上に取り付けられる大熊手・神号「歳徳大神」・天地の破魔矢

二日前に北陸地方を襲った記録的な大雪による混乱で、斎行を心配する声も寄せられましたが、各所との協力のもと、火祭り当日には祭場、参入退出路を確保、例年通り無事に執り行うことが出来ました。

やぐらに忌火が点火されると、一年の無病息災を祈って、たくさんの方がお参りされました。

多くの方々のご協力とご理解に深く感謝申し上げます。



勢いよく燃え上がるやぐら





本殿・例祭

## 例祭を厳かに斎行　二上山では築山行事

節目を祝い　さらなる繁栄を祈る

ご祭神・二上神の神威霊験に感謝し、皇室の弥栄と国家の繁栄、国民の平穏を祈る例祭が、四月二十三日午前十時から献幣使を始め神社役員・崇敬者ら多数のご参列の下、厳かに執り行われ、特に天皇陛下御即位三十年・明治維新百五十年の節目を祝いました。

本社祭典では、昭和天皇が昭和八年に、世の泰平を祈ってお詠みになられた御製「天地の神にぞ祈る朝なぎの　海のごとくに波たたぬ世を」をもとに、同十五年、皇紀二千六百年を奉祝して、時の宮内省楽長の多忠朝氏が作曲振付された『浦安の舞』を本装束の巫女二人が奉奏しました。

同日午後二時、元鎮座地の二上山の麓では古例の「築山行事」（県指定無形民俗文化財）が行われました。ここでは地元の万葉小学校に通う児童らによって神楽『末広の舞』が奉奏されました。

なお、児童による奉納は、今回で十五回目の節目を迎え、本番に先立ち、大役を担う三名が本社・射水神社へ稽古に通い、巫女より舞の姿勢や足運びの指導を受けました。



築山行事

## しなやかに末広の舞

### 23日築山行事　児童が神楽披露



高岡御車山の祭典に合わせ県無形民俗文化財「築山行事」が23日、高岡市の二上射水神社（旧・伏木二上）で行われる。境内に設けられた舞殿「築山」の前では、地元の小学生3人が神楽『末広の舞』を披露する。大役を担う児童たちは、より良い舞に仕上げようと練習に力を注いでいる。

築山行事は、二上射水神社の例大祭に合わせて毎年、行われる。神を迎える儀時の装置「築山」を3本のスギの御幣で設置。鷲払いのダンイ（獅子頭御幣）を持つオナベインに続き、舟の形をした脱内社、二上大神、日吉社のみこしが舞殿内を巡る。築山に車を付けた物が境内に3周展し、御車山になったとされる。

練習は高岡市立射水神社で行われ、万葉小学校4年の森ちあのさん（10）が同神社のみこから指導を受けている。同神社によると、築山行事の神楽の披露は長く途絶えていたが2004年に復活。今年は15回目の節目という。

昨年に引き続き2度目の舞となる森さんは「体の動きが大きく見えるように意識しながら、しなやかに舞いたい」と話した。

「末広の舞」の練習に励む児童たち

北日本新聞（平成30年4月18日掲載）

特報

# 枝折れてなお 満開に


「桜の枝」を供える神職

記録的豪雪により、甚大な被害を被った古城公園・射水神社ですが、雪の重みに耐えられず倒れ、伐採した本殿脇の桜の大木の小枝に花が咲きました。

四月十一日、清掃にあたっていた神職が見つけ、さっそく御神前に奉飾しました。今年の桜は例年より一週間ほど早く開花したこともあり、お花見に来てもすでに桜が散っていたという方が多く、この枝折れて、地に着いてもなお一所懸命に花を咲かせている桜に心も和ませられ、強い生命力に感動を与えられました。


満開の「桜の枝」

高岡市護國神社の春季例大祭も毎年、桜花爛漫の下で斎行されていましたが、今年はほぼ散ってしまっていたため、代わりに大雪で折れても満開となった桜の枝を青竹の筒に入れ、三千五百七十六柱の御英霊に捧げられました。さらに巫女は、手に持つ採物を「榊」から「桜の枝」に代えて『豊栄の舞』を奉奏しました。


富山新聞

大雪で折れても咲いた花

## 桜の枝 戦没者に捧げる

高岡・護国神社春季例大祭

### サカキの代わり 巫女も手に舞う

富山新聞（平成30年4月14日掲載）



富山県知事・射水神社代表役員

# 館 哲二奉賛会長 没後五十年 顕彰の穐（とき）

## ―射水神社の中興に尽力―


遷座八十年祭での神幸祭



師は、大正・昭和期にかけて高岡政財界の御三家の地位を固め、産業基盤を築いた木津太郎平氏（代議士、高岡市長）の二男として生まれ、後に館家の入夫となりました。

戦後官費を絶たれ衰頽極まりない射水神社の姿に恐懼し、復興に立ち上がったのが木津太郎平氏で、師も多くの重責を果たされる中、そのご意志を継いで射水神社の代表役員となり、自ら復興活動の先頭に立てるよう奉賛会長に就任されました。

官民一致して厳粛盛大に行われた大正十三年の遷座五十年祭以来、混迷する時局のため、杜絶えていた毎十年祭の再興に邁進され、昭和二十九年九月十一日には遷座八十年祭と共に、古式の神幸祭を斎行して、神事に一層の崇厳を加えられました。

出身地　富山県高岡市
生没年　明治二十二年（一八八九）～昭和四十三年（一九六八）
出身校　東京帝国大学
主な官職　内務官僚
内務次官・神社局長・内務次官軍人援護会理事長・同胞援護会副会長兼理事長・内閣書記官・内閣官房記録課長・内閣官房総務課長　など
政治家
参議院議員（三期）
富山県知事（公選初代）
東京都知事（第三十一代）
石川県知事（第三十二代）
鳥取県知事（第二十七代）　など

位勲功
従三位勲一等瑞宝章
紺綬褒章
桐紋木杯一組台付（昭和三十七年五月）
菊紋銀杯一組（昭和四十年十一月）

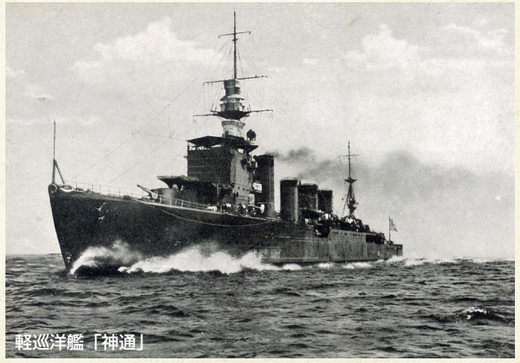
七十五年の時を経て

# 軽巡洋艦「神通」慰霊顕彰祭

## 初斎行のお知らせ

軽巡洋艦「神通」は、米戦史家サミュエル・モリソン元米海軍少将から「太平洋戦争中、最も激しく戦った日本軍艦」と賞賛されました。

沈没後七十五年経った今年、「神通」の戦歴を振り返り戦没物故者の慰霊顕彰祭を、帝国海軍軍艦慰霊顕彰会（久野　潤　会長）と共に初めて執り行います。


軽巡洋艦「神通」

**日時**　平成三十年七月十五日（日）午前十時三十分～

**場所**　射水神社　儀式殿［どなたでもご参列いただけます］

帝国海軍軍艦慰霊顕彰会及び射水神社では、「神通」元乗組員・戦没者物故者御遺族の方、「神通」関係の写真・史料の情報を求めています。

戦後七十年以上を経て、守護神（艦内神社の分霊元）であった射水神社の大前にあらためて奉告申し上げつつ、「神通」および関係の先人たちに慰霊顕彰の誠を捧げるため、どんな些細なことでも、是非ご一報をお寄せ下さい。

## ご奉納

**一、銅地菊花御紋吊燈籠　六基**

荻布　善亮
松井　信之
のし蓬莱　加納千代子
関口　光子
宮崎　正・太郎・徹
矢野喜美子


吊燈籠を眺める奉納者

**一、菊花御紋提灯　壱張**

井上機材株式会社



**一、本殿御匙正絹総角結飾紐　壱条**

嶽家


（敬称略）

ご家族の節目に記念としての奉納品もお受け致しております。

**一、『学徒出陣とその戦後史』**
（啓文社書房　平成二十九年十月刊）

著者　久野　潤（歴史学者）






# うつくしの杜　～合わせ水の儀～



〝合わせ水の儀〟は北陸地方に伝わる婚礼の儀式です。この儀式は、花嫁が挙式当日に新郎家のご先祖様にお参りをされる時に、玄関先で新郎家の一員となることを意味する「敷居またぎ」の時に執り行われるものです。


（かわけ）盃

挙式当日の朝一番に両家で汲まれた水を青竹等に入れて準備します。

新郎家の玄関敷居の内側から、新郎の父より新婦の順に水を注ぎます。これにより、一つの盃の中で両家が交わり、結婚により両家の繋がりを生む花嫁が合わせた水を飲み干します。かけがえのない両家の絆を大切にしますという決意をもって頂いた後に、盃は地面に打ち付けて割り、新郎家の敷地へと埋められます。

盃が割れて元通りにならないように、新たな家族として新郎家との絆を結び新婦の家には戻りません、という強く清らかな決意、そして新郎は新婦の想いを受けとめ、一生家族として幸せにします、という覚悟を形にしたものになります。よって、「一生水」とも呼ばれています。日本人の〝和の心〟の表れた素晴らしい儀式といえるでしょう。

結婚式場の見学にいらっしゃったお二人に「合わせ水」の説明をさせていただきますと、多くの方が「いいですね。ぜひやりたいです」とおっしゃられます。結婚式場〝うつくしの杜〟では射水神社参集殿の大玄関を新郎家の玄関先にみたて、厳粛に執り行っています。

かつて当たり前のこととして人生の節目に執り行われていた儀式、例えば成人を意味する元服祝や髪上祝、そして結納式なども行われなくなってきています。

新しい人生の門出にあたり、厳かに「合わせ水の儀」を執り行い、互いの心を通わせてみませんか。


両家で汲まれた水と盃

越中総鎮守一宮
射水神社
発行日／平成三十年六月　発行所／射水神社　〒九三三―〇〇四四 高岡市古城一―一　印刷所／キクラ印刷株式会社　表紙／夢を追う男 阿部雅龍氏
お問合せ〈社務所〉（〇七六六）二二―三一〇四　〈結婚式場〉（〇七六六）二二―〇八〇八　URL／http://www.imizujinjya.or.jp　Eメール／info@imizujinjya.or.jp

# 河村　伜世子氏 作画

## カレンダー『全国一の宮　巡拝　～東海・甲信越～』

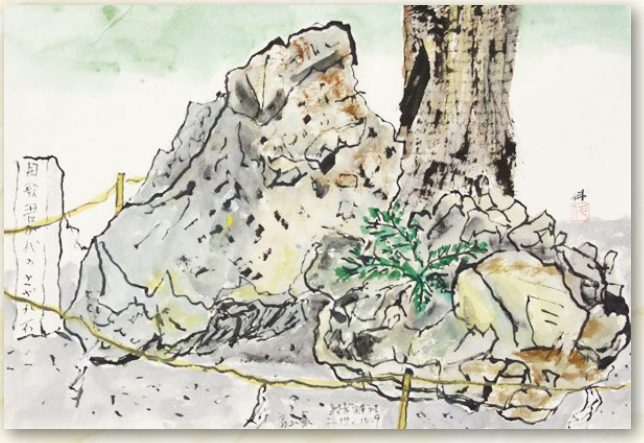







河村氏は大阪市住之江区在住で、絵画をライフワークとして全国一の宮を巡拝されています。平成二十九年十月九日に当社へご来社、御神木「紅梅」と「さざれ石」をスケッチされました。

本年のカレンダー『全国一の宮　巡拝　～東海・甲信越～』に採録され、表紙に当神社御神木の「紅梅」が描かれています。



## 堅香子 ―かたかご―

ものゝふの　八十娘子らが　汲みまがふ　寺井の上の　堅香子の花

（大伴家持『万葉集』巻十九・四一四三番歌）



大伴家持卿が『万葉集』の中で詠んでいる堅香子は、万葉集ゆかりの花として高岡市の花に指定されています。

当社大鳥居前にも堅香子が植生しており、早春に十センチ程の花茎を伸ばし、薄紫の花を下向きに咲かせ、毎年愛らしい姿を見せてくれます。

家持卿が詠んだ美しい花を見て、万葉の時代に思いを馳せてみてはいかがですか。

## 編集後記

天皇陛下御即位三十年と共に、特に本年は、明治天皇を中心に近代国家へと歩み出した明治維新以来、百五十年の大きな節目を迎えました。

また、越中総鎮守と崇められた当社の戦後の荒廃を憂い、復興へ献身的に尽力された館哲二大人没後五十年、さらには御分霊が守護神として祀られていた軍艦「神通」没後七十五年の節目ともなります。

心から郷里を愛し、発展に力を注がれた先人達の思いを今に照らし、県民と心ひとつに祭祀の厳修と神社奉護に臨む所存です。

射水神社　検　索